

放課後等デイサービス真愛南大分 自己評価結果（公表）

公表：令和7年3月1日

放課後等デイサービス真愛南大分

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		利用者人数、活動に応じて机を移動して活動スペースの確保を行ったり、常にクールダウンできる場所、学習スペースの確保を行っている。	利用人数、活動に応じたスペースの活用に工夫する。 クールダウンが出来る場所の確保に努める。 学習スペースの確保をする際には周囲の声や音が気になる利用者には、集中できるスペースの確保を工夫する。
	2	職員の配置数は適切である	8		配置基準より多くの人数を配置し、子どもの利用人数に合わせ、細かく配置計画を行い実施している。	配置基準を満たすことは当然のことだが、利用者の特性に応じて支援の質を高めていく人員配置の工夫を今後も行っていく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8		室内に段差はなく、トイレに手すりを設置している。	現状維持で問題ないと思われる。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8		毎日、ミーティングを行い議事録を作成し、前日の申し送り、本日の共有する事例を伝え、全員で業務に参画できる体制をとっている。	職員全員に情報を共有し、共通理解のもと支援を行えるよう毎日のミーティング、申し送り、記録を通じて全員参画する体制を整えている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		保護者の評価アンケートの実施はもちろんのこと、保護者が気軽に意見を記載できるノートを活用し、普段から保護者の意向を把握しやすくしている。	保護者向けのアンケートを活用するとともに、日頃からのコミュニケーションを大切に して保護者の意向の把握に努め、常に業務改善につなげたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
業務改善	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		HPで公開している。	HPで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8		現在、外部評価は行っていない。	今後の検討を課題とする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		内部研修、外部研修、各種訓練を実施するなど全職員の研修、訓練への参加を確保している。	委員会を設け活発な意見交換を行うとともに、定期的に研修、訓練を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		担当者会議、普段からの保護者とコミュニケーション、直接支援を行う職員の意見等、つねに情報を集め、多角的見地から分析できるようにしている。	アセスメント、モニタリングを適切に行い、正しい情報に基づいた放課後等デイサービス計画の作成を行う。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		標準化されたアセスメントツールを使用している。	今後も継続して使用していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		児童発達支援管理責任者が統括し、複数名の職員が年間間の活動を分析し領域につながる活動プログラムを立案している。	今後も複数人が立案に関わり、チームで取り組んでいく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		活動内容に季節や年間行事を取り入れ、子どもの成長や発達にも気を配っている。	今後も活動が固定化しないように、複数人が活動計画の立案に携わり、子どもの成長や心身の発達による変化に合わせて、活動内容を計画していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題を きめ細やかに設定して支援している	8		平日には、日常的な継続を必要とする課題を中心に置き、長時間利用となる休日の活動においては子ども一人一人の個性を考慮しながら、じっくりと取り組めるものを課題にするなど、状況に応じた設定をしている。	今後も、子どもの状況に合わせた活動の中で、一人一人の成長を促すためのきめ細やかな目標を設定するように考えていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8		子どもたちの発達を日々観察し、職員で意見を交わしながら、個別活動と集団活動の組み合わせを工夫し計画している。	今後とも、子どもたちの発達の変化に目を向け、障がい特性も考慮しながら個別活動、集団活動、適宜組み合わせ、計画を修正していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		支援開始前に必ず打ち合わせをしている。シフト上、参加できない職員はそのミーティング議事録にて打ち合わせ内容を確認できるようにしている。	今後も支援開始前の打ち合わせは必須事項として日々確実に実行していく。全職員で情報共有を行い、質の高い支援を行うように努める。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		シフト上、支援終了後に全員が揃うことができないため、活動記録、ミーティング議事録、業務日誌を活用し共有している。	その日行われた支援の振り返り、気づいた点の情報共有をこれまで同様、活動記録やミーティング議事録や業務日誌を使用して徹底していきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		個々の利用者の活動記録をその日に関わった職員全員で記録をとっている。	推測ではなく事実、また主観ではなく客観的に活動記録を残していく。その事実に基づいた検証を行い、より良い改善策を導き出し、日々の支援につなげていきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8		普段から保護者とのコミュニケーションを大事にし、状況の変化を見落とさないようにしている。	定期的なモニタリングを継続し、保護者との円滑なコミュニケーションにより、計画の見直しの必要性を見極めている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	8		季節を取り入れた活動や創作、基本的日常動作を取り入れた活動など、複数を適宜組み合わせさせて活動プログラムを作成し支援に取り組んでいる。	厚生労働省のガイドラインに記されている基本活動を指針とし、今後も支援を継続していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		子どもの状況に精通した相応しい者の参画に努めている。	今後とも継続して、最も相応しいものが参画していきたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8		学校との情報共有は保護者を通じて適宜行っている。また、学校への送迎の際に先生方とお話する時間を取り、情報共有をはかっている。	今後とも適切な情報の共有、連絡調整を継続していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	7		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害の子ども利用がない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等と の間で情報共有と相互理解に努めている	1	7	現在特に行っていない。	保護者や相談支援事業所より要望があった際は、速やかに対応していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	4	卒業を控えた利用者のご家族からの要望に応え、これまでの支援内容の情報を提供し、連携をとっている。	今後も要望があれば、速やかに対応したい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	現在特に行っていない。	過去に発達障害者支援センターよりSVを派遣してもらい、専門家の助言を受けたケースがあった。今後も必要な場合には、速やかに専門家と連携が取れる体制を維持していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8	交流が厳しい現状がある。	障がいのない子どもとの交流を望まない保護者の声もあり、交流の実現は難しいのが現状である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	8	現在参加していない。	今後の検討課題とする。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		デイ日誌、連絡ノート、送迎時の申し送り、面談等、複数の方法により、普段から情報を共有しやすい仕組みを作っている。	今後も引き続き、保護者との円滑なコミュニケーションを心がけ、保護者に寄り添い、子どもの発達の状況や課題に向き合っていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		8	現代、実施していない。	過去に家庭支援プログラムの情報提供を行ったことはあるが、実際に支援を行った実績はない。要望があれば検討課題のひとつにした。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約締結時に、具体的に、且つ、わかりやすく説明するように心がけている。	今後も丁寧に分かりやすい説明を行うことで、利用に対する不安を払しょくできるようにしていきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		支援計画説明時に、子育てにかんすることなど、困りや悩みも何うようにしている。	保護者の気持ちに寄り添い、共感を大切にしながら、子どもの状況に応じた助言と支援を行って行きたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8	現在行っていない。	要望があれば検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		子どもや保護者から相談や申し入れがあった場合は、職員間で話し合い、迅速に対応し体制を整えている。	相談や申し入れに対して、真摯に受け止め、迅速かつ適切に対応して行くことはもちろん、保護者が相談しやすい環境を整備していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		活動予定表、行事予定を毎月配布している。活動の概要も、連絡ノートに記載してお知らせをしている。	活動予定表や、連絡ノートや写真を活用して、今後もこまめに発信していきたい。
35	個人情報に十分注意している	8		個人情報記載文書は鍵付きのロッカーに保管し、文書破棄は、シュレッダーを使用するなど、細心の注意を払っている。	日々の活動の様子を写真プリントにて、各家庭に持ちかえってもらう際も、保護者の承諾を得て運営しており、個人情報の取り扱いについては、細心の注意を払っている。今後も継続していきたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		例えば、視覚支援を利用するなど、障害特性を理解し、意思の疎通や情報伝達に配慮している。	今後も、障害特性を正しく理解し、意思の疎通や情報伝達がスムーズに行えるよう勤めていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8	現在特に行っていない。	保護者の方々の意見を聞きながら、要望等あれば、検討課題のひとつにしたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	各マニュアルは策定し、職員がいつでも確認出来るように整理している。保護者への周知は計画説明時に行っている。	今後も保護者への周知を徹底していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8			R7.6月に安全計画訓 R7.8月に避難訓練 R7.10月に災害研修、訓練の実施予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		外部研修に積極的に参加している。全職員の研修の機会の確保のため内部研修も取り入れている。	事業所内研修 R7.2.23 実施済み 今回はR8.1月に実施予定。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8		身体拘束の3要件を全職員で確認し、支援の向上に努めている。	身体拘束の必要性の高い利用者はおらず、過去の実績もないが、厚労省の定める身体拘束の3要件を職員が今一度確認する機会を保っていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		契約時等の保護者の申告に基づいて対応している。	今後も対応を継続していく。また、時間の経過とともにアレルギー対象物に変化がないかの確認も行う。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		事例集を作成して、情報の共有に努めている。	怪我や事故などの危険性がありそうな場面では、ヒヤリハットを作成し、情報の共有を徹底して、再発防止に努めていく。	